



読字 原田 鏡

No. 800

2016/ 6/15

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
〒110-0005 東京都千代田区千代田1-1-1

日中友好協会
岡山支部
〒700-8256
岡山県岡山市東区3-8-30 514
TEL:0861272-3010
郵便番号1100
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8511
倉敷市遊島中央1-8-4 (宮地方)
TEL/FAX:0861416-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhong.biz/>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



文化大革命と私

—真の日中友好を考える契機に—

日中岡山支部 小林軍治

はじめに

私は1942年(昭和17年)、中国(旧満州の開拓団)で生まれ、46年に日本に帰国した。日本では、両親から旧満州で植民地支配下の生

活と逃避行(引き揚げ)の苦勞話を聞かされて育った。小さい時から私の心の中には、中国(旧満州)があった。大学時代(1961年〜65年)は、中国語を履修し、米軍基地撤去を求める反米愛



日中友好協会役員・事務局員による新年もちつき大会(1968年)

国の学生運動に参加した。当時、米帝国主義に対抗する中国に共鳴し、革命小説「紅岩」に感動していた。

日中友好を問い直す

1965年4月、勝山高校に赴任した私は、文化祭で北京放送を聞こう!の掲示をした。中国に心酔していた時期に「文化大革命」(文革)が起きた。当初私は、プロレタリア文化大革命と称し、ブルジョア的思想・文化に対する闘争であるとのマスコミ報道に接し、ある種の期待感を持っていた。勝山高校の文化祭・体育祭で「紅衛兵」のマネをする生徒も現れた。

文革(1966年〜76年)が進行する中で、暴力と破壊が中国全土に拡がり、偉大な「精神革命」とは、ほど遠いものとなった。私の中国観が変化し「日中友好とは」を問い直す契機となった。

日本国民の自主的な

日中友好運動

私が所属する日本中国友好協会は、前々号で紹介したように、「文革」路線の押しつけに反対したために、「分裂組織」を作られ、中国とは33年間の交流断絶がつづいた。この間わ

たしたちは、日中友好運動とは日本国民の自主的な運動と組織であるとの立場で、日中不戦運動、文化活動などにとりくんだ。

退職後(2003年3月)に係わった「中国残留孤児訴訟」で、孤児のみなさんが「文革」で大変な目にあった」とよく話した。私は、こうした話を聞くときに「文革」に正しく対処した、我が日中友好協会を誇りに思う。と同時に、「孤児」のみなさんの前に胸を張って立つことができた。

おわりに

中国に心酔し、当初ある種の期待を持っていた私が、「文革」支持派にならなかったのは、次の二つの理由が考えられる。

一つは、高校生の部落問題研究活動を通して、いかなる理由があろうとも「暴力・差別」は許さないとこの人権認識を持つていたこと。

二つには、教え子を再び戦場に送らない「スローガン」のもと憲法・旧教育基本法に基づいて、人権・平和教育に取り組んでいた岡山高教組の組合員であったこと。

日中岡山の旗をもってメーデーに参加

第87回岡山県中央メーデー

は5月1日、旭川河川敷で働く者の団結で生活と権利を守り、平和と民主主義、中立の日本をめざそうとのメーデースローガンのもと約530人が参加して開かれました。医労連が歌で、高教組が寸劇でそれぞれの職場の状況を壇上で訴えました。

集会は、国民共同の力で戦争法廃止と立憲主義の回復、野党共闘の前進で安倍政権の暴走政治にストップをかけるための更なる運動の強化



を呼びかける「メーデー」宣言を採択し、デモ行進を行いました。

参院岡山選挙区の野党統一候補、黒石健太郎さんもデモ行進に駆けつけました。

日中岡山支部からは、小林事務局長が日中岡山支部の旗を持って参加し、日中新聞の発送を毎回手助けしてくれる、坪井、石川両先生と記念の写真を撮りました。



日中友好協会倉敷支部

第12回定期総会開催のご案内

2016年、第12回定期総会を下記のように開催いたします。
ぜひご参加くださいますよう、ご案内いたします。

開催日 2016年6月18日(土)

時間 午前10時半より

場所 水島公民館 第1会議室

一種の童養媳(トンヤンシ)である。貧家が幼女を買って家内労働に使役し、将

悲劇の逃避行 2
その後ある中国人がやって来て子守をやらなにかと言われ働くことになった。ことばが通じないので、手差し図で洗濯をしたり、ご飯を炊いたりした。電気がなく、夜が明けると起き、日が暮れると寝る。朝晩食べられるだけでありがたかった。

ある中国残留婦人の生涯
— 鴨井千代子さんのこと — 4
来、男児の妻とする。彼女も、その息子の嫁にされそうになったそう。人民革命時に廃止された。半年ほど経った頃、解放軍の八路軍が村に入ってきた。その中の日本語のできる朝鮮の男の人が訪ねて来た。病院で働かないかと言われ、行くことになった。これが人生の転機となった。

翌年、子どもも大きくなったので、工場で働きたいと言った。

趙雅静として生きる
同じような境遇にあった日本人4人が、依蘭県立病院に連れて行かれた。医者や看護婦の助手のような仕事であった。宿舍生活で三食の食事が保障され、わずかだが、給金ももらった。患者の大部分は解放軍の兵士だった。当時、中国は、複雑な状況にあった。国共合作。抗日戦争に勝利したが、国内は、国民党と共産党とが内戦状態にあり、人民解放軍が攻撃を強め、全土を支配しつつあった。

病院で働きはじめて一年ぐらい経った頃病院長の紹介で、ある共産党幹部の保母をすることになった。近々3人目のお子さんができる。住み込み、その子の保母として働くことになった。

その人の家には、警備の人や運転手さん等10人ぐらいが住み込み、一緒に生活していた。この人たちとも仲良くなり、中国語を教えるもらえるようになった。

その人の転勤で、佳木斯、瀋陽にも付いていった。1949年10月1日、中華人民共和国が成立。瀋陽に黒龍江省、吉林省、遼寧省の三省を治める東北局が設置された。その人は、ナンバー3の1人となった。

その時、夫人から中国名にした方がよいと言われ、趙雅静(チャオ・ヤーチン)と名乗ることになった。いわれは夫人の姓の趙をもらい、姓名の方は、鴨井の鴨が、中国語ではヤーと、井はチンと発音する

織物工場で働くことになったのだが、彼女は身体が小さすぎて、難しいということになった。その時、勉強をしないと夫人に言われ、東北工農速成中学校に入学することになった。そこは、職場の模範生や共産党員が集められ、新中国の幹部を養成する学校であった。党員でない日本人の彼女も特別に入学を許可された。建国時の明るさを感じさせる光景である。

た。夫人が党書記をしている織物工場で働くことになったのだが、彼女は身体が小さすぎて、難しいということになった。その時、勉強をしないと夫人に言われ、東北工農速成中学校に入学することになった。そこは、職場の模範生や共産党員が集められ、新中国の幹部を養成する学校であった。党員でない日本人の彼女も特別に入学を許可された。建国時の明るさを感じさせる光景である。



1948年依蘭県立病院で働いていたときの写真
鴨井千代子さん(右)、服部敦子さん(左)
同じ七虎力開拓団の一員、服部さんは島根県出身で1948年に帰国した。17才

次回の新聞送付作業は
7月1日(金)午後1時半から
民主会館2階で行います。
前回お手伝いくださった方です。
石川 和
竹内 和
竹内 和
坪井 和
光本 和

のでそれを使った。
学校は、寄宿舎生活で給料をもらいながら、六時起床、十時就寝で八時間の授業。自習もあるので、毎日、ほとんど学習に費やされた。一年近く頑張ったが、ストレスからか、腎臓結核の病気になる。入院、手術。左の腎臓を摘出。一年間休学、療養し復学をしたが、また高熱が続き、結果、退学する事になった。23才だった。